

# A low-birth-weight risk assessment scale : development and validation through a questionnaire-based survey

著者	園田 和子
journal or publication title	BMC Health Services Research
year	2019
ファイル(説明)	博士論文全文 博士論文要旨 最終試験結果の要旨 論文審査の要旨
別言語のタイトル	低出生体重リスク評価尺度 : 質問紙調査による開発と検証
学位授与番号	17701甲保研第14号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/00030746">http://hdl.handle.net/10232/00030746</a>

doi: 10.1186/s12913-019-3886-7

## 論文審査の要旨

報告番号	保研 第 <b>14</b> 号	氏名	園田 和子
審査委員	主査	根路銘 安仁	
	副査	堤 由美子	副査 田平 隆行
	副査	中尾 優子	副査 赤崎 安昭
<p><b>A low-birth-weight risk assessment scale: development and validation through a questionnaire-based survey</b></p> <p>(低出生体重リスク評価尺度：質問紙調査による開発と検証)</p>			
<p>研究目的：妊婦の日常生活の中に潜在化している胎児の発育に影響のある低出生体重児の出生関連要因を捉え、その母親の日常生活の要因と生まれた児の体重との関係を明らかにし、正期産児の出生時低体重リスクを評価する尺度（低出生体重リスク評価尺度（以降、尺度））を開発し、その信頼性・妥当性を検討する。</p> <p>研究方法：A 県内 42 か所の保育園・幼稚園の母親を対象に、自記式質問紙調査を行なった。尺度（試案）は、先行研究結果と予備調査を反映させて作成した。その結果、尺度項目は 33 項目に精選され、評価に際し 4 件法により回答を求めた。分析は、尺度の項目分析の後、探索的因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行い、因子構造を確認した。信頼性は、Cronbach の <math>\alpha</math> 係数と Item-Total 相関を用い、妥当性は既知集団妥当性により t 検定と一元配置分散分析、その後の Tukey の多重比較を用い確認した。本学疫学・臨床研究等倫理審査委員会の承認（第 278・341 号）を得て実施した。</p> <p>結果：671 名（回収率 19.7%）の母親より回答を得て、630 名の母親（有効回答率 18.5%）と 916 名の児を分析対象とした。探索的因子分析の結果、最終的に 9 因子（25 項目）構造が確認された。9 因子の尺度全体の Cronbach's <math>\alpha</math> 係数は 0.701 であった。妥当性の検討は、下位尺度を得点化し、その合計得点（以降、尺度得点）の平均値を出生体重で 2 群に分けて検討した。その結果、2,500 g 以上の児を出産した母親の尺度得点の平均値のほうが有意に高かった（<math>t = -3.153, p = 0.002</math>）。また、妊婦の喫煙歴は、喫煙歴のない母親の方が妊娠中喫煙を継続していた母親より、尺度得点の平均値は有意に高かった（<math>p &lt; 0.0001</math>）。</p> <p>考察：妊婦の語りから抽出された関連要因を尺度項目として（試案）を作成し、探索的因子分析の結果、9 因子 25 項目で構成された。信頼性は、第 8 因子の Cronbach's <math>\alpha</math> 係数が低値だが、25 項目の質問票である本研究の Cronbach's <math>\alpha</math> は許容範囲であり、内的整合性の確保が確認された。妥当性は出生体重などを群分けし、尺度得点の平均値で比較する既知集団妥当性により検討し、先行研究の既知と一致が確認された。研究の課題は、今回は未就学児の母親対象の後ろ向き調査であり、今後は前向き調査と共に尺度の精度を高めていく。</p> <p>結論：本研究で作成された尺度は、【健診毎の指導】、【適度な休養】、【夫のサポート】、【胎児への影響】、【社会的サポート】、【家族のサポート】、【マイナートラブルの影響】、【良い生活習慣】、【転倒のリスクと生活の変化】の下位尺度から構成され、一定水準の信頼性と構成概念妥当性（因子妥当性）が確認された。</p> <p>審査の結果、5 名の審査委員は、本論文は、新たな尺度の開発の信頼性と妥当性の検討であり、博士（保健学）の学位論文としての価値を十分に有すると判定した。</p>			